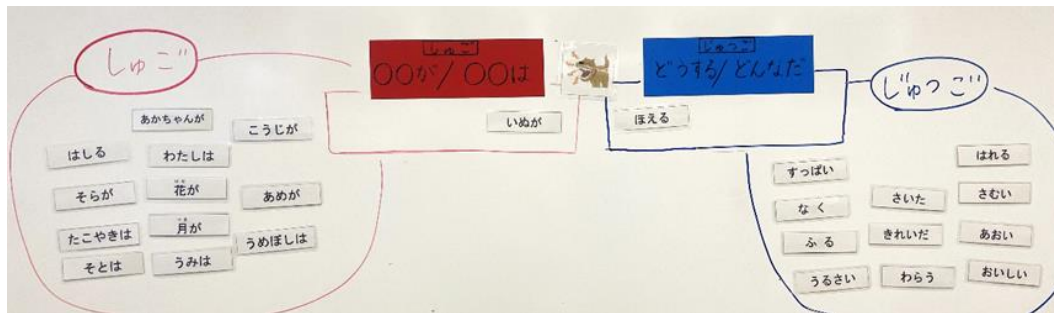


【国語】文をつくろう

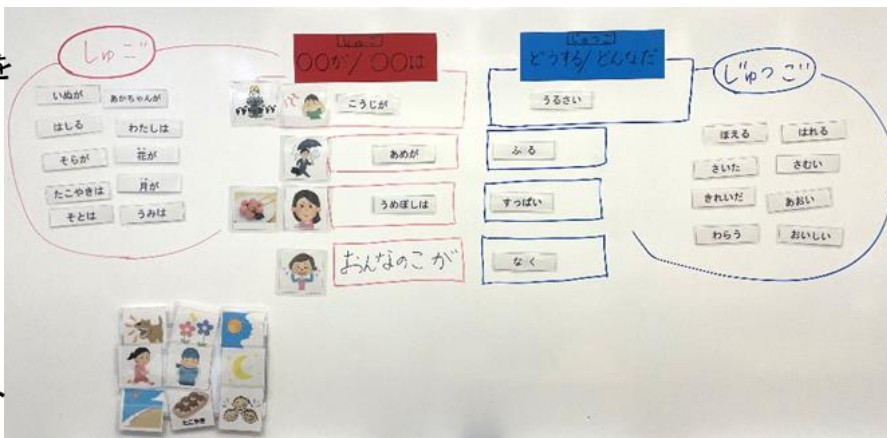
■教材名

文構成カード

①文字カード分類：主語、述語に分ける（下図）



②文構成
（文字カードを
使って:右図）



③個別プリント
2語文作成

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

国数6段階グループ中の3グループ（低1→6高）。
ひらがなの読み・書きが概ねできる。
簡単な言葉でのやり取りができる。

【ねらい】

- ・主語・述語の関係が分かる。
- ・簡単な2語文、3語文をつくることができる。

【教材の使い方】

- ・授業前半の全体学習の中で①②を行う。
- ①文字カードを主語と述語に分類する。
- ②絵カードを手掛かりに、文字カードで2語文を作る。

【工夫した点】

- ・全体学習では見るだけでなく、文字・絵カードを実際に操作しながら文を作れるよう設定した。

【数学】

お金

■教材名

お金の弁別



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

数学2グループの生徒

発語はほとんどなく、文字の書き取りが困難で、教員が付き添うことで学習に参加することができる。

【ねらい】

- ・硬貨の種類を正しく弁別することができる。

【教材の使い方】

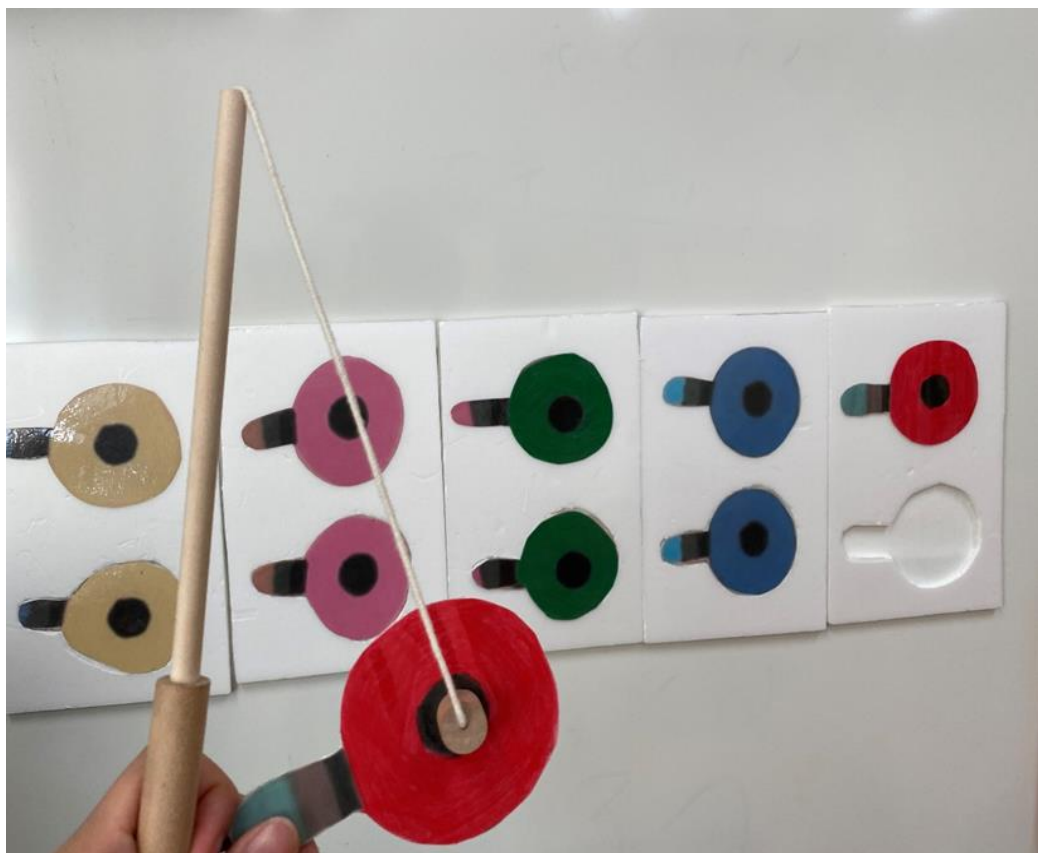
- ・イラストや金額を見ながら、硬貨を箱の中に入れる。

【工夫した点】

- ・箱の中身が見えないようにした。
- ・表示をマジックテープにすることで、生徒の実態に合わせて、イラストや文字など貼り換えられるようにした。

【国語・数学】 色の弁別

■教材名 さかな釣りマッチング教材



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

2年生の重度・重複学級に所属している3名。発語はほとんどなく、文字の書き取りも困難である。教員の言葉掛けや視覚的教材を用いることで、教員と一緒に2～5色のマッチングを行うことができる。

【ねらい】

- ・いくつかの色の中から、同じ色を選ぶことができる。
- ・対象物に注目して、釣竿を扱うことができる。

【教材の使い方】

マッチング教材および視覚支援として。

青マットの上に教材を置き、さかなを釣る。釣ったさかなと同じ色のさかなを探し、マッチングを行っていく。

【工夫した点】

教材に発砲スチロールボードを付けることで、生徒が手に取りやすいようにした。また、教材に厚みがあることで、型はめの感覚が出るようにした。

【美術】 立体制作（生き物の形）

■教材名：立体制作のための心材作り（新聞紙）



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

3年生美術 CDグループ生徒が対象

【ねらい】

手だけでなく指先を使って丸めていくことで、手指の操作性を刺激する。

生き物の形をできるだけ明確にし、特徴をイメージできるようにする。

【教材の使い方】

基本的に新聞を丸めて立体の中心とするため、ざっくりとした形の塊を作る。このあと、上から石膏シートや紙粘土で覆っていくように制作を進めていく。

【工夫した点】

石膏シートあるいは紙粘土の心材となるため、その生き物の構造や動きを表すようにする。また、ぎゅっと絞って作ることで、その後の加工がしやすくなる。

【家庭科】 裁縫、印つけ

■教材名 印つけのお助けアイテム



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

布製品製作にあたり、布端から1cmの印を正しくつけることが難しい。

【ねらい】

自分の力で正しく行うことができ、達成感をもつことができる。

【教材の使い方】

①アイテムの凸部分だけを、布にのせる様に合わせて、凸部分に短い線の印をつける。

②①の方法で2か所、短い線の印をついたら、布の向きを変えて、定規を当てて直線を引く。

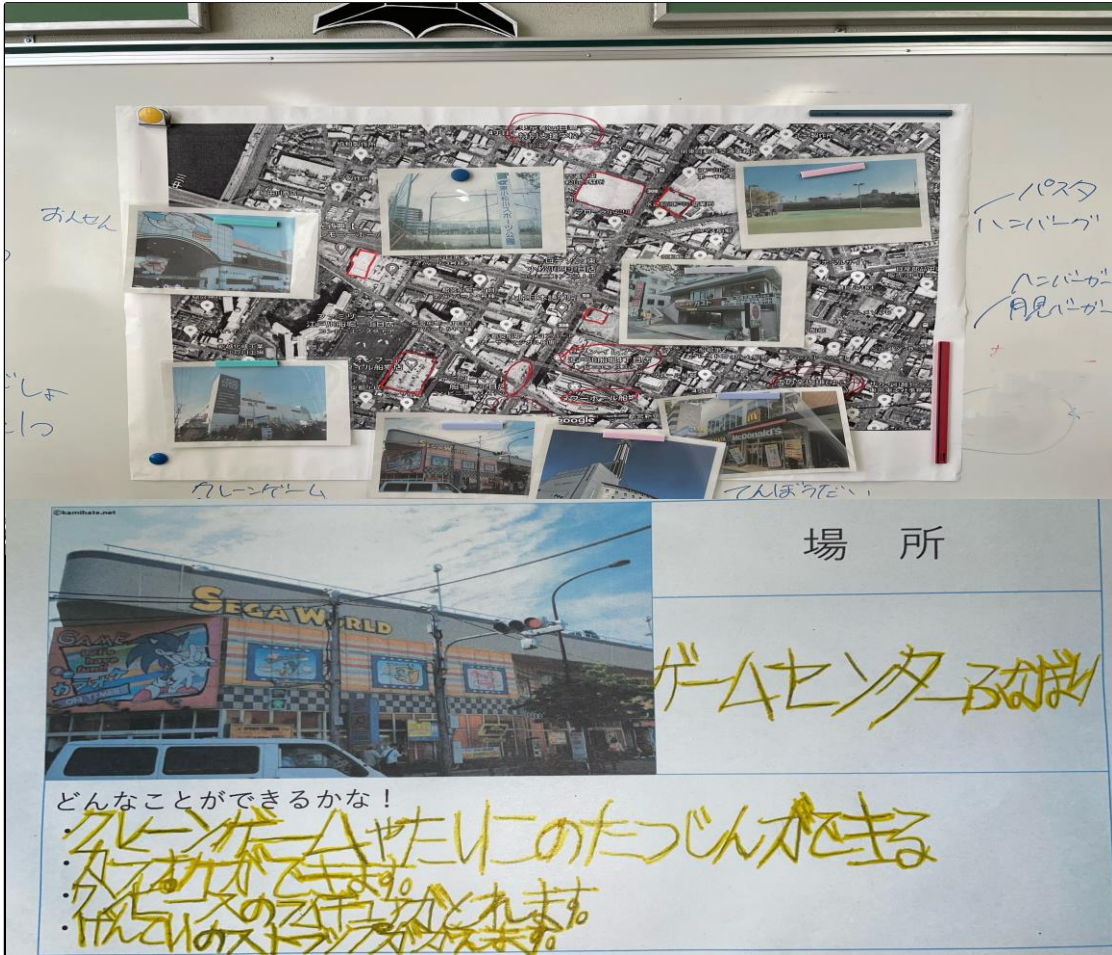
【工夫した点】

①アイテムを置いた時にピタッと収まった感覚がもてること。

②点ではなく、短い線にすることで、印と印を結ぶ際の曲がりを防ぐ。

【生活単元学習】 余暇マップを作ろう

■教材名 余暇マップ



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

高等部3年3グループ。口頭での指示だけでなく、具体物を用いて指示や支援を行うことで理解できる生徒が多い。

【ねらい】

様々な余暇の過ごし方を知ることができる。

身近な公共施設や公共物の存在や場所、その役割を知る。

【教材の使い方】

船堀駅周辺の地図を印刷し、知っている場所や調べたい場所を聞き出し、写真を選んだり、地図に書き込んでいく。

【工夫した点】

写真を加えることで建物のイメージがしやすくなる。

身近な場所の地図なので、発展として地図をもとに場所や建物を確認し、より理解を深めていくことができる。

【作業学習】 サンドブラスト班

■教材名

彫刻技法の見本、製品例



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

サンドブラスト班（Ⅱ類型）

認知は比較的高い生徒が多いが、完成図の想像が難しかったり、自分でアイデアを想像したりすることは難しい場合がある。

【ねらい】

- ・ 具体物を用意し、見たり触ったりすることで彫刻の深さの違いや、狙う場所、シートを剥がす手順などを理解しやすくする。
- ・ 新しい部材をどのようにデザインするか実際に教員が作製したものを見てイメージをもちやすくする。

【教材の使い方】

- ・ 彫刻技法や製品開発でつまづく生徒に示す。

【工夫した点】

深さの違いや狙いが分かりやすいように断面バージョンを作製した。作製する過程で工程を分析することができ、生徒の苦戦しそうなところや工程そのものを見直さなくてはならないところを理解、改善したうえで指導することができる。

【日本の伝統・文化】包む文化を知る

■教材名

のし付きのポチ袋を作る



お弁当袋
プレゼントラッピング
風呂敷
パッケージ(包装袋)
ふくさ
宅急便(小包)

「包」という漢字の成り立ちは…

「人が腕を伸ばしてかかえ込んでいる」象形



胎児(赤ちゃん)が母親のお腹の中で育まれている形から成り立っている。

「包む文化」の歴史①

紙で包む

・贈り物を紙で包む習慣は、祭事で生まれた。
清浄を表す白い和紙の上に、赤く染めた和紙を重ね、神事のお供え物だった匏を干したものを載せ、水引で結ぶという風習は、現在もお歳暮やお中元、祝儀袋などで残っている。→熨斗(のし)



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

3年Ⅱ類型、細かい作業が得意な生徒も数名いるが、苦手と感じている生徒が多い。

【ねらい】

のしの文化に興味をもち、成り立ちや意味、価値を理解し、生活に生かす。動画の手本通りに折り紙を動かしたり、折ったりできるようになること。(就労や実習でマニュアルを見て作業することも多い生徒たちなので、その練習にもつなげたい。)

【教材の使い方】

まずは「包」という漢字の成り立ちや、のしの歴史について学習し、お中元やお歳暮の包み紙にも印刷されていることを知る。その後、のし付きのポチ袋作り(写真右側)に取り組んだ。

【工夫した点】

苦手意識のある生徒のためにジャンボ折り紙を用意した。また普通の折り紙ではなく、千代紙を利用することで、より日本らしい雰囲気味わえるようにした。

【自立活動】個別課題

■教材名

- ①ボール入れ ②ふた並べ ③面ファスナー剥がし



■対象生徒の実態とねらい

【実態】

高等部2年生重度・重複学級の生徒3名

- ・多動傾向の生徒、衝動的な行動に出る生徒等、常に個別の対応が必要。
- ・興味があること以外の事物に対して、注視することが苦手。

【ねらい】

- ・教材に注目することができる。
- ・手元を見て、教材を操作することができる。
- ・手指の巧緻性を高める。

【教材の使い方】

- ①かごにボールを出し、片手でケースを持って片手でボールを押し込む。
- ②かごにふたを入れ、一つずつ取って枠に入れていく。できるようならば向きを揃えて入れる。
- ③一枚ずつつまんで剥がし、終わったら数を数える。

【工夫した点】

- ①ケースのふたに切り込みを入れ、ある程度の力で押し込まないとボールが入らないようにした。ケースに入ったことが分かりやすいように、鈴入りのボールを使用した。
- ②仕切りや入れたふたが見えやすくなるように、かごの底に黒画用紙を敷いた。ふたの色は、生徒の習熟度によって統一したりバラバラにしたりする。
- ③注目しやすいように、面ファスナーの剥がす側を赤く着色した。剥がしやすいように少しずらした状態で貼っておく。

【ホームルーム】 共生社会

■教材名

共生社会の実現に向けて

バリアフリー化してみましょう



ユニバーサルデザインの一例



ぶつかった人は何をしていたか



暮らしやすい社会づくりにおいて

**本当に必要な人のため
ルールやマナーを守る
意識をもって生活する**

■対象生徒の実態とねらい

【実態】

2年生Ⅱ類型に所属している16名。口頭での質問に対し、自分の考えをまとめ、回答することができる。

【ねらい】

卒業後の豊かな生活を実現するために、広い視野に立ち、自分にできることを模索する。

【教材の使い方】

補助教材および視覚支援として。

【工夫した点】

生徒たちに問いかけやすい映像を用いた。

生徒たちが疑問に浮かぶであろうことを次のスライドで確認できるようにした。